

## 2010年 川上村地域づくりインターン 報告書

信州大学 農学部 森林科学科

森林環境科学コース3年

中谷 元彦

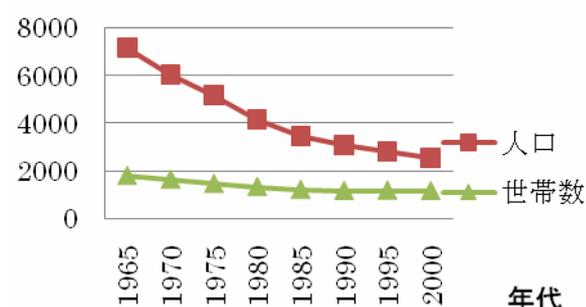
### ◆はじめに

僕がこの川上村地域づくりインターンに参加した理由は、木材となる原木を生産する山元の現状や問題、それらに対する山元の取り組みについて学びたかったからです。また、僕自身が奈良県出身であり、地元にある日本三大人工美林として有名な吉野林業について学びたくて、川上村が吉野林業の発祥地であるからというのも理由の1つです。インターンを通して、日本の林業の衰退によって、林業を基幹産業としてきた川上村も多くの課題を抱えていることを学びました。この報告書では、僕が川上村で見て、聴いて、感じたことを元に観光業と林業の面について意見・提案をしていきたいと思います。

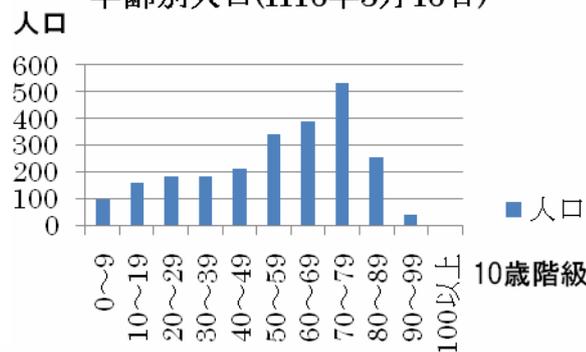
### ◆川上村の抱えている課題

川上村では過疎化・高齢化が進んでいます。その原因は、川上村は急傾斜地が多く平地が少ないため農業や大規模な工場を建てるのには不向きな立地条件にあり、林業が衰退している現在働き口がほとんど無いこと。また、集落同士が離れていることや村内に店が少なく村外まで買い物に行く必要があるなど、車が無いと生活が厳しいといった不便な環境であること。つまり、この「働く場が少ない」、「不便である」という2点が主な原因となり若者が村外へ行ってしまい、過疎化・高齢化が進んでいると考えられます。住民に行った「川上村の良くないところ」のアンケートで、「働く場の不足」・「交通の不便」・「買い物をする所の不足」が上位3位に入っていることから、これらが過疎化、高齢化の主な原因であることが伺えます。

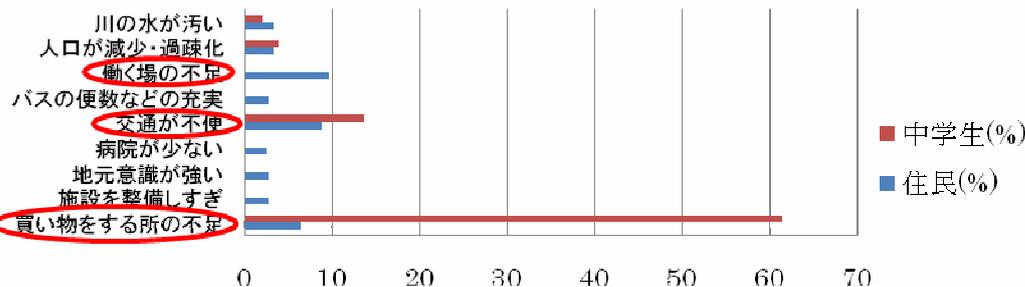
人数・世帯数 国勢調査人口



年齢別人口(H16年3月16日)



川上村のよくないところ



## ◆課題を解決するには

上記の課題の原因で、最も重要視しなければならないのは「働く場が少ない」ことだと思います。働く場があれば、人々が留まるようになり、人々が留まるようになれば、留まった人々を相手に商売をしようとする店が増え、店が増えれば、村内で生活に必要なものが手に入るため村外に行かなくても生活に苦しむことがなくなると考えられます。川上村内で働き口をつくるのが、ある程度川上村の不便さを解消し、過疎化・高齢化を防止する有力な解決策だと考えます。そして今の川上村にとって適した働き口というのは、観光業と林業だと思います。

## ◆観光業

### ◎観光業を挙げる理由

観光業は川上村が水源地の村として掲げる「川上宣言」の中の「都会や平野部の人たちにも川上村の自然に触れ合ってもらえる仕組みづくり」と「子どもが自然の生命の躍動に素直に感動できるような場作り」の二つに適した業種だと思います。外部から来る人を対象とするため多くの人に川上村を知ってもらうことができ、また、観光地を整備することによって子どもが自然と触れ合える場を作ることができます。現在川上村でも観光業に力を入れており、観光資源も多くあるため、これらの資源を上手く利用して観光業を働く場として発展していくべきだと思います。

### ◎観光資源 ～自然～

川上村は自然が多く残っているため、水源地の森や歴史の証人、井氷鹿の里など自然に関する観光地は多く、遊水フェスタ、ツアーなどのイベントや、もくもく館、森と水の源流館、白川渡オートキャンプ場などの観光施設も多く存在し、自然の面は観光に上手く利用しているように思います。

### ◎観光資源 ～歴史～

川上村は後南朝という歴史を持っています。これは北南朝合一後に南朝の皇統の子孫や遺臣たちによって樹立された政権と皇室のことであり、これは当時の日本にとっては裏歴史と呼ばれるもので、そのため文献はほとんど残っておらず、ゆかりの地と様々な諸説が残っているだけとなっています。正確なことが分からない曖昧なものですが、色々な可能性のある「謎多き歴史」として観光に使えないでしょうか。曖昧ではありますが、ゆかりの地があり、様々な諸説があるということなので、観光に来た人々が諸説を聞き、ゆかりの地を見て、それぞれが後南朝について推理していくという形式での観光も面白いのではないかと思います。観光というとガイドに連れられて名所を回り説明を聞くというのが一般的ですが、そこに得られた情報から自分で推測を立てるという要素を加えることによって、観光名所を見る楽しみだけでなく、色々と想像できるという楽しみを増やすことができます。

このような形式で後南朝ゆかりの地を観光に使う場合、宣伝用のパンフレットには後南

朝の簡単な説明と、様々な諸説、ゆかりの地を記した地図を載せるべきだと思います。こうすることによって、川上村に来る前から想像力をかき立てて、楽しんでもらうことができるのではないのでしょうか。また、宣伝用では載せきれなかった後南朝に関する詳しい内容を載せたパンフレットを道の駅や役場に置くのも良いかもしれません。後南朝ゆかりの地の観光をツアーで行う場合は、内容を考えるとコストは高くなりますが、小規模の方が良いと思います。大規模にすると、全体にガイドの説明が行き届きにくいことや、ゆかりの地はそれぞれが小規模のものが多く、道も狭いため、移動も観光も困難になり、参加者に満足してもらえるツアーにはなりにくいと思います。

### ◎観光資源 ～名物～

観光について今まで述べてきた自然的・歴史的なモノやコトは個人の感性で大きく価値が変化するため、明確な価格決定が難しいといえます。このような価値が不安定なモノだけでは産業として成り立たせるのは難しいと思うので、食べ物や製品といった明確に価格を決定することができるモノ、いわゆる名物を観光資源に取り入れていく方が良いと思います。川上村の場合、国道 169 号線が村内を通過しており、シーズンになると大台ヶ原に行く客が多くこの道を利用するという事なので、道の駅などに名物を置いておけば観光客が買う以外に通りすがりの人が寄って買うということもできるので名物をつくることはメリットになると考えます。川上村には、こんにやくや大前とうふ、柿の葉寿司など美味しいモノが多くあり、ちまきや栞餅、茶粥といった郷土料理もあるため、名物をつくって販売すれば売れるのではないかと思います。生産量が少ないという問題点は、限定販売という形で販売すれば良いのではないのでしょうか。例えば、こんにやくの場合、買い手はリピーターがほとんどとのことなので、試食など食べる機会をつくって一般の市販されているこんにやくとの違いを知ってもらえば、よく売れるようになるのではないかと思います。道の駅で試食をやっているとのことでしたが、実際見に行ったときはどこで試食をしているのか分かりませんでした。個人的にもこのこんにやくはとても美味しいと思いますし、一度食べてもらえれば買ってもらえると思うので、もっと大々的に試食を行っても良いのではないかと思います。

また、名物を販売するなど道の駅を活用していく場合、もっと道の駅前に「ここが道の駅だ!!」とアピールするような看板などを立てたほうが良いと思います。僕の注意不足かもしれませんが、川上村に来て 2,3 日の間あの建物が道の駅だとは分かりませんでした。

## ◆林業

### ◎林業を挙げる理由

川上村を支える産業として、かつて栄えていた林業を再びしていくべきだと思います。その理由は、まず、前にも述べましたが急傾斜地が多く平地が少ないため広い平地を必要とする工場の設立や農業には適していないこと。次に、林業は川上宣言の 1 つである「自然と一体となった産業を育て山と水を守り……」に適すること。吉野林業で生産される

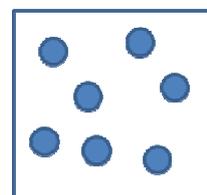
材は年輪が密で良質であること。また、川上村は急傾斜地が多く、降雨量も多いため土砂崩れなどの災害が起きる可能性が高いが、森林の手入れは行き届いておらず現状では森林の公益的機能の1つである防災機能がちゃんと機能せず、逆に土石流と共に流れる木々が大きな被害を起こす可能性もあるため、防災の面からも手入れが必要であること。最後に中国の木材需要が拡大してきており、日本の主な木材輸入国であるロシアも木材輸出の関税を高くしたことから、日本に入ってくる木材が減り、国産材の需要量が増える可能性があること。以上4つの理由が挙げられます。

### ◎林業の問題点

現在、川上村の林業は販売価格よりも伐出コストが高いため、採算がとれず産業として成り立っていないという状況にあります。吉野林業の集材方法はヘリコプター集材が主流となっており、このヘリコプター集材は一時間で約60万円の費用がかかり、かなり高コストとなっています。そのため良い材の一番良い部分(一番玉)でしか採算が取ることができず、間伐材では採算をとることはできません。かつては架線集材であったため、費用が安く多くの材を運び出すことができました。実際、架線集材であった1980年にはスギを25200m<sup>3</sup>搬出していたのに、2009年では8400m<sup>3</sup>と減少しています。減った要因には林業が衰退したということも挙げられるかもしれませんが、ヘリコプター集材となって、選んで搬出しなくては採算がとれなくなったことも大きな要因だと考えられます。架線集材からヘリコプター集材になった理由には、当時、吉野スギはブランド材であったためヘリコプター集材にしても採算が取れたこと。吉野林業は密植・多間伐という施業スタイルであるため、皆伐のような「面」での伐採ではなく「点」での伐採であるため、架線集材では立木にぶつけて傷つけないように運び出すのには技術が必要であること。架線の架設・撤去には時間がかかるため手間だったことが挙げられます。また、作業地が急傾斜地であることやヘリコプター集材が主流となったため林地内の整備が十分に行われず、林道密度が3.9m/haと非常に少ないため、トラックや林業機械が利用できないというのも問題だと思います。



面



点

### ◎林業への提案 ～モノレール集材～

ヘリコプター集材では採算がとれず、架線集材では手間と技術が必要であり困難なことなので、現在の川上村の林業に適した新しい集材方法を導入すべきだと思います。僕は、急傾斜地が多く、降雨量も多く、林道密度が低い川上村の林業にはモノレール集材の導入をお勧めしたいと思います。

### ◎モノレール集材の利点

モノレールの利点は、急傾斜地(40°～45°)でも真っ直ぐ登ることができ、川上村の地形にも対応しています。敷設はレールの支柱を打ち込むだけなので重機を使っての堀削作業を必要とせず、敷設コストは6000円～20000円/mで作業道とほぼ同じコストだそうです。林地を荒らさないの、急傾斜で降雨量の多い川上村では林道よりも敷設による土砂災害

の危険性を減らすこともでき、維持管理もレール周辺の草刈りやレールの定期点検だけと容易に済ませることが出来ます。またレールの単位幅が 1~1,5m であるため路網をある程度自由に設定することができ、分岐点を設けることによって広面積をカバーすることも可能です。モノレールは連結する台車を変更することにより集材だけでなく、作業用資材や人を輸送することもでき、現在最も普及しているモノレールは人を運ぶことを目的とした乗用モノレールです。最近ではグラップルを搭載した新しいタイプのモノレールもあります。

### ◎モノレール集材の欠点

モノレール集材の欠点としては、トラックなどに比べ積載能力が低く集材の際は何度も運ばなくてはならないこと。それに加えて速度が約 50m/分と遅く作業効率が悪いということ。また、レールがダメージを受けやすいため、作業時には多くの注意が必要であること。レールの周辺しか集材できないため、レールの近くまで材を運ぶ必要があること。材をレールの近くまで運んでもグラップルなどが備わっていないモノレールの場合、荷台に材を載せるが大変だということ。そして、新たに機械や資材を購入しなくてはならないため設備投資がかかるということ。が挙げられます。

### ◎個人的な評価

上記のようにモノレール集材には多くの欠点もありますが、林業用モノレールは間伐のための新しい森林路網として導入されました。川上村の急傾斜地が多く、降水量が多く、林道密度が低いという現状と多間伐によって森林を管理していく吉野林業の特性を考えると、新たに林道を開設するよりも今ある林道までモノレールを引くということの方が環境・手間・コストのどの面においても良いのではないかと思います。

### ◆おわりに

この報告書では、僕が川上村で 13 日間過ごした中で、見て、聴いて、考えたことを述べさせていただきました。ただ、発表の際にも指摘されたように、なぜ名物がないのか、歴史を用いたツアーが行われていないのかどうか、などといったことを調べておらず、かなり詰め甘い内容となっています。モノレール集材の件についても、実際にモノレール集材を行っている現場に行き、利用している方々の生の声を聞いたわけではなく、ただ大学の講義で説明と簡単な紹介ビデオを見ただけで具体的な内容を言うことはできません。結局、僕の言っている内容は「机上の空論」でしかないのです。

ですが、机上の空論でも川上村の現状をよく知る方々に、川上村をこんな風に考えることもできるという一案として読んで頂けたら幸いです。

このインターンでは、当初僕が学びたかったことより、はるかに多くのことを学ばせていただきました。川上村の自然も林業の現状も、それぞれの業種のプロの方々のお話も役場や地域の方々との会話も同じインターン生とのやりとりも全て僕の「ため」になりました。二週間のインターンでしたが僕は個人的な都合により 1 日早くインターンを早退する

という自分勝手なことをしてしまい、面倒を見てくださった杉田さん伊藤さんをはじめ、多くの方々に大変迷惑をおかけしました。申し訳ございません。そして本当にありがとうございます。

◆参考

- ・吉野川源流物語～第2章～ 平成17年3月 川上村発行
- ・インターンシップで記したメモ
- ・大学講義で用いたプリント・ノート